

豆の町（ビーンタウン）から
こんにちは（第16回）

会員家族 住井 円香

■アメリカならではの組織メンバーとして過ごして

前回、学内における疑似兄弟関係を構築する組織である、フラタニティやソロリティについて書かせていただきました。こうしたフラタニティやソロリティは密接な人間関係を築き、兄や姉的存在であるビッグブラザーやビッグシスターなどが一人ひとりについていたり、パーティを開催したりするなど、華やかな存在のコミュニティとして知られる一方で、秘密を守る傾向からいじめなどの温床にもなると指摘される面もあります。

今回は私自身も所属する、吹奏楽部内のグリークライフについて紹介させていただきます。ボストン大学の吹奏楽部のグリークライフに該当する組織は二つあり、フラタニティ・Kappa Kappa Psi（カッパ・カッパ・サイ、以下KKΨ）とソロリティ・Tau Beta Sigma（タウ・ベータ・

シグマ、以下TBΣ）という名前の団体です。KKΨもTBΣも全米的な組織で、吹奏楽部の盛んな大学には、これらのいずれか、もしくは両方の団体の支部があります。

私がいるTBΣは、男性のみしか参加できなかったKKΨ（1919年創立）が第2次世界大戦中に人員不足となり、女性も参加できるようにする目的で設立されました。TBΣの正式な発足は1947年で戦後になります。こうした経緯もあり両団体は兄弟団体のような立ち位置にあります。

どちらも吹奏楽部をサポートすることを主目的としているため、一般的なグリークライフの団体とは少し形態が異なります。設立時にはそれぞれの組織は男性のみ、女性のみのものでしたが、1972年に連邦議会が可決・制定された教育改正法第9条が性別による教育活動への参加の制限を禁じたことから、両組織ともに性別に関係なく在籍できるようにになりました。

実際に、TBΣのボストン大学支部に男性会員もいますし、KKΨにも女性会員が在籍しています。KKΨは男性用のグリークライフ・フラ

タニティとして、TBΣは女性用のグリークライフ・ソロリティとして設立された経緯から、今でも前者の会員をブラザー、後者の場合をシスターと呼びますが、この場合のブラザーやシスターは性別を意味するわけではなく、どちらの団体の会員であるかを表しているだけ、となっています。つまり、女性であってもKKΨに所属していればブラザーで、男性であってもTBΣの会員であればシスターというわけです。

KKΨやTBΣと同様、ビジネス系や学問系などのグリークライフは性別による制限がないものが多い一方で、一般的なグリークライフの団体は今でもそうした制限があるところが多くあります。私の組織は、吹奏楽部員によって構成されるため、教育活動の一環とみなされ、法律の制限を受けるためのもの、それとも一般的なグリークライフも本来は制限を受けるべきものだけでも、何らかの抜け道のようなものを見つけた結果なのかは、疑問に思うところ

です。

ただし興味深いのは、性別による入会の制限がない分、所属する人のタイプや個性に違いが表れるところ

です。もちろん一概には当てはまらないのですが、KKΨは情熱的で真っ直ぐな人、TBΣは穏やかでどちらかという物静かな人が多い印象です。春休みには、メリーランド州ボルチモアで行われたKKΨとTBΣの北東地域の総会に参加したのですが、こうした特徴は私の大学のみならず、他の大学の人たちにも当てはまるようで、誰がブラザーで誰がシスターなのかがすぐにわかりました。

■メンバー選考のための独特な手順と秘匿性

私が昨年から在籍していたTBΣのボストン大学支部では、衣装の管理など、KKΨは楽器の運搬など、それぞれ役割分担をしながら吹奏楽部を支えています。顧問の言葉を借りると、高校までの部活動における「PTAのような組織」とのことですが、日本では、体育会の部活動におけるマネージャー的存在に相当するように思います。

また、アイスホッケーやバスケットボールの試合で演奏する際に吹奏楽部の部員の出欠確認など、両団体で協力して作業を行うこともあります。私の大学にはアメリカンフット

ボールのチームがないのでアイスホッケーなどの試合での演奏に関連した活動内容が多いのですが、アメリカンフットボールが盛んな大学だなどのようなことが行われているのが気になるようです。

私の大学でこうした組織に参加するには、大学の体育会と関わりの強い Athletic Bands と呼ばれる団体に、最低でも一学期間は在籍することが条件になっています。アスレチックバンド (Athletic Bands) に

はスポーツの応援を主に行うペープバンド、フィールドの上でパフォーマンスをするマーチングバンド、冬季に室内で活動するパーカッション専門のグループのウインタードラムライン、同じく冬に旗やライフルなどを使って身体表現を行うカラーガードのグループ、ウインターガードなどが挙げられます。

秋学期に、こうした団体で活動していた人たちから勧誘活動を行い、新メンバーの候補としてふさわしいとみなされた人に招待状が送られます。そして、参加に同意すると春学期からは、候補生としての活動が始まることになります。

こうした選考の詳細は秘匿とされ

ていますが、主に普段の吹奏楽部員としての姿勢や、勧誘活動の際の様子などから、前向きに物事に取り組んでいるかといったところや協調性などを見て、招待状を誰に渡すのが判断されます。入会金や会費なども発生するため、参加同意の期限は春学期が始まる直前までに設定され、冬休み中には参加について保護者に相談できるようにしています。

こうした手順をみると、厳格そうにみえるかもしれませんが、勧誘活動自体は格式ばったものではなく、説明会などに加え、TBΣの場合はノースエンドというボストンのイタリア街へ、KKPはアートの街として知られるサウス・オブ・ワシントン地区へ出かけるなど、レクリエーションが多いです。

私の場合は、2年生の秋に説明会に参加し、11月頃に招待状を受け取り、2月頃からは組織についての概要を学ぶちょっとしたレッスンを1週間に1回程度受けるようになります。創立者の歴史やルールなどについて、和気あいあいとした雰囲気です。上級生から講義を受けます。そうして春頃まで入会のための儀式に何度か参加し、4月頃から正式メン

バーとして活動するようになります。

実は、日本でも小学生の時に吹奏楽部に参加していたのですが、どちらかというとそれほどやる気がある方ではなかったため、こうした組織に参加することになり、内心今でも驚いています。

儀式の内容などは秘密となっていたため、ここで詳しく説明できないのですが、普段の和やかさと異なり、厳かさに驚いたものの、誓いを立てることが中心で、特に違和感はありませんでした。ただ、不快さを感じたと言う後輩もいて、そこでも捉え方の違いを感じました。

KKPもTBΣも、正式入会の際には、自分のビッグブラザーやビッグシスターから、ニックネームが名づけられます。このニックネームは新会員の性格や個性を踏まえて考えられ、吹奏楽部の顧問の先生から承認される必要があります。私のニックネームはここで紹介できないのですが、普段の様子から、あまり表面に出ていないいつものところまでよく観察し、考えて名付けてくれたことが伝わり、とても嬉しかったことを覚えていきます。

先日、5月17日に大学を卒業したため、活動期間は約1年半と短かったですが、アメリカならではの組織に所属することができ、忘れられない経験になりました。特に昨年4月の正式入会後、すぐに会計となり、日本でもやったことがないファンドレイザー (資金調達担当者) を年に数回企画・実行することとなり、戸惑いながら、なんとか取り組んできました。

運営活動に関わらざるをえなかったことで生じたコミュニケーションなどでは、人によって反応や考え方が違ったり、想定していたことと異なる展開になることも多々ありましたが、苦労した分、卒業後に活かせる必要な経験だったのかもしれないと思っています。



寮があったボストン大学で最も美しい
Bay State Road (筆者撮影)